

令和7年度 事業計画評価シート

新潟大学附属新潟中学校

(本年度、重点的に取り組む事柄)

今年度の研究主題 豊かに対話するコミュニティの形成を通した生徒と教師の学びの深まり（2年次研究） 【前次研究の成果と課題を踏まえたキーワード】 ・コミュニティの形成に資する学びの構造化 ・学びの深まりの実感・納得と省察

学校関係者評価	
A	とても適切である
B	概ね適切である
C	あまり適切でない
D	適切でない
E	判定できない

評価項目	具体的評価項目及び指標	学校関係者(学校運営協議会)評価	
		評価	意見・理由
【義務教育を実施する学校として】 ○学力向上 ○基本的な生活習慣の確立 ○豊かで、互いに高め合える人間関係の構築	ア 基礎学力の確実な定着 モニタリングテスト（MT）もしくはベリックテスト（BT）において、8割以上が「A」評価 イ 道徳や特別活動、探究的活動の充実 研究アンケートの関連項目における肯定的評価が8割以上 ウ いじめ見逃しゼロ・撲滅に向けて、計画的な心の健康チェックを基にした教育相談を年2回以上実施及び全校指導・集会を年2回以上実施。	A	・家庭での学習端末の使用状況について、保護が十分に把握しきれていない様子がある。学校からの学習端末を用いた学習課題の提出の仕方、行事の際の係生徒の連絡ツールとしての使い方、その発信時間等をNEXT GIGAのタイミングで再確認してほしい。
【教育研究を推進する学校として】 ○新しい時代に求められる教育及び、公立校のニーズに合った教育研究の推進	ア 公立校のニーズを踏まえた教育研究発表会等の実施 市や県の中教研、新潟市教育委員会、全附連とより一層の連携を行い、休日開催における研究発表会実績の分析。 イ 研究の成果を発信する。 研究会での実践資料の配付、HP等での研究成果の配信。研究まとめの書籍発行を視野に入れた省察。	A	・教職員の負担にならないように、資料作りや発信方法について、より工夫をしてほしい。
【教員養成を行う学校として】 ○成果の上がる教育実習 ○教育学部、教職大学院との連携 ○教育委員会及び公立校への研修協力	【具体的評価項目】 ア 教育学部、教職大学院、他大学、他校の講座を担当 担当講座数や研修会講師派遣者数及び授業研究助言者数 イ 教育実習において、実習生がICTを活用できる等新たな工夫をし、事後アンケートにおける肯定的な評価が8割以上。	A	・読書への親しみを今一度、振り返ってみてもよい。